

## 未来を創る：歯科技工所のデジタルワークフロー導入の実践と展望

株式会社デンタルデジタルオペレーション 加藤拓也

歯科業界における精度の向上をはじめとするデジタル技術の進化は、作業効率の向上も含め、業界に革新をもたらしています。

また 2024 年度の診療報酬改定にあたり、「光学印象」や「光学印象歯科技工士連携加算」が算定できることになり、歯科医院の口腔内スキャナー導入は、益々加速することが予想されます。

それに伴い、従来の手仕事中心のプロセスから CAD/CAM 技術を活用した効率的なワークフローへと移行することが求められています。

本講演では、こうした状況にいち早く対応するため、歯科技工所のシステム作りに重要なポイントである、デジタルワークフローの導入、技術者のトレーニング、歯科技工所と歯科医院の連携、デジタルを導入する上で必要となるセキュリティとデータ管理について、弊社の取り組みを臨床症例をお示ししながらご紹介いたします。

また今後の展望として、AI や IoT 技術の進化によるさらなる自動化の可能性、クラウドベースのデータ管理と連携、遠隔診療との統合など、デジタルワークフローがもたらす未来の歯科技工の姿について述べさせていただきます。

本講演では、歯科におけるデジタル技術の現状を紹介するとともに、皆様が明るい未来を描く一助となることを目指します。

## 進化していくデジタル技工に対する準備・対策・対応

株式会社 KDR1abo 西山浩行

約 20 年前、ジルコニアが歯科材料として認可され、今では金属材料の代替材料ともなりうる材料として認知されている。2012 年からは CAD/CAM 冠が保険適用となった。そして、今年 6 月の保険改定を経て IOS を用いたデジタルデータでの CAD/CAM インレーも保険適応となり、今後段階的に適応範囲も拡大されていくと予想され、これからはデジタル機器を扱うことが当たり前になっていくだろう。弊社は 2013 年に開業し、そこから 10 年を経て 50 人規模のラボとなった。10 年の間で 2 回移転し、現在 200 坪のフロアで運営している。開業当初は完全アナログのラボ経営であったが、今日に至るまでにラボスタッフが「アナログマインド」から「デジタルマインド」へ変化するにあたりソフト面、ハード面における多くの課題に直面し、乗り越え、今がある。

今回は弊社がデジタル化に対してどう考え経営・運営を行ってきたか、また、近年の歯科技工士不足問題・働き方改革についてこれからのラボ経営についてどう考えていくかを提案させていただきたい。